

現地企業で活躍する
IT マネージャーの責務

IT&ビジネス・デベロッパー

マネージャー × アシスタント

ロットネスト島へフェリーを運行するロットネストエクスプレス。同社でITを使ったビジネス・デベロッパーとして活躍する2人にインタビューをしました。立場も国籍も違う2人が、毎日同じチームで、同じ目的に向かって仕事をしています。



マネージャー

寺澤 健太郎さん

ロットネストエクスプレス・IT&ビジネス・デベロップメント・マネージャー。同社とワーキングホリデー時代に出会い、その後、就職。社内では、ケニーの愛称で親しまれている。



アシスタント

モハメッド・ポーラさん

ロットネストエクスプレス・IT サポーター。インド出身。オーストラリアの大学でITを先攻した後、技術者として複数プロジェクトを担当。2014年に転職をし、現職に就く。



仕事を得る

仕事を得るためには、受け身の姿勢になってはいけない。ハングリー精神を持って飛び込む勇気とは。

寺澤：「初めてパースに来たのは2000年のことです。日本の大学を卒業後、「世界で働きたい」という思いだけを持って、ワーキングホリデービザで渡豪しました」



寺澤：「そのときの英語力はと言うと『Hello』しか言えず(笑)、履歴書もホストファミリーに大部分を作成してもらった有様でした。船と海が好きという理由だけで、漁業、クルーズ、ダイビング関連の会社へ、電話帳の片っ端から100社以上、履歴書を送りました。2社だけ返事が来たうちの一つが、今の会社です」



ポーラ：「私の場合、大学へ留学するためにオーストラリアに来ました。ITを専攻し、スキルを学んでいたの、それを活かせる仕事を一番に探しました。ITエンジニアは、プロジェクトごとにコントラクターとして働くというスタイルが多く、私も

そのような働き方をしていた。もう少し会社全体の戦略にコミットしたいと思い、今の会社に応募しました」

寺澤：「当時、僕が採用された理由は、“面白かった”から。英語が喋れなかった僕は、面接で何を聞かれても『Yes』って言うていたんです。『いつから働けるんだ?』『Yes』、『どれくらい働けるんだ?』『Yes』みたいに。だから、最初は何をやってもしんどかったです。それでも、日本語を断ち切ったら少しずつ理解できるようになるんですね。就労期間が終了し、そのままビザをスポンサーしてくれることになりました」

ポーラ：「私のポジションには87人の候補者がいて、ケニーさんが10人まで絞って面接をしたと聞いています」

寺澤：「モハメッドの面接を担当しましたが、彼の場合、スキル面は十分でした。情報分析能力の高さと、仕事に対する柔軟性、そして、ハングリー精神の強さが感じられて、採用したいと思いました。僕もそういうタイプですので」

ポーラ：「私は宗教の関係で、仕事にもお祈りをします。毎日、お祈りの時間になると席を立ちますが、ケニーさんと職場の皆さんが理解してくれるのは、有り難いことです」



IT&ビジネス・デベロッパーの仕事って?

ITを駆使してビジネス戦略を遂行する仕事。ITに関する知識と、マーケティングの知識の双方持ち、サイト運営やシステム構築も行っていく。eコマースビジネスが主流となっている今、データベースの分析から流通経路の開拓に至るまで、この仕事のニーズが高まっている。



『ロットネストエクスプレス』でのIT&ビジネス・デベロッパーの仕事

- ITインフラ環境の管理・分析・運営
- 関連会社も含めたネットワークサポート
- HPの管理・運営
- 観光部門のマーケティング
- ウェブチャネルからの集客管理

取材先

ROTTNEST EXPRESS



ロットネスト エクスプレス

一度は訪れたい人気観光スポットであるロットネスト島へ、毎日フェリー便を運行する。観光事業の他、重油などの輸送関連事業が中核事業となっている。

住所：1 Emma Pl. Rous Head, North Fremantle
電話：08 9432 0890

職場に唯一いる日本人

社内で部下から見ると上司の存在とは。そして、日本人のポテンシャルとは。



ポーラ：「ケニーさんは、タイムマネージメントをきっちりこなし、責任感が強いと思います。私は社会人経験が浅く、わからないことも多くありますが、部下である私のことを気にかけて、一つひとつ丁寧に仕事を教えてくれます。自分の成長をサポートしてくれていることを実感します」

ポーラ：「入社して直ぐ、私が交通事故に遭ったときにも、ケニーさんが車で送り迎えをしてくれました。常識だったら、首になってもおかしくない状況でした」

寺澤：「日本の義務教育を通して学んでいることは、世界規模でも水準が高く、日本人は世界トップレベルの仕事を提供できると思います。世界に出ると、日本では常識とされている一般的なルールやマナーなどが、身につけていない人たちもいますので」



寺澤：「その日本の教育に加えて、英語力と多文化を芯から理解し、受け入れることができれば、日本人は優れた労働資源として、いろいろな国や分野で活躍できると信じてます」

日本とオーストラリアの職場の違い

日本人らしさを武器に現地企業で働く、その責任感の源とは。



寺澤：「違いはたくさんあります。その中でも、僕を感じる一番の違いは、“個人の責任の範囲”です。日本では、プロセスが合っていれば結果が出なくても咎められることは少ないようです



が、オーストラリアでは結果が出ないと“See you later”です。オージーの多くのエグゼクティブ・レベルの人間は、日本人よりもたくさん働いているのも事実です」

寺澤：「僕の場合、権限が与えられて責任を伴うからこそ仕事が楽しいと感じますし、次のステップにチャレンジできる環境が好きです。働く場所や肩書きは関係ありません。自分が求めている環境があるかどうか、それだけです」

ポーラ：「ケニーさんは、仕事への責任感が今まで会ってきたビジネスマンの中で一番強いんですね。仕事を途中で投げることがないですし、考え抜いた答えを必ず用意しています」



寺澤：「今の職場は、オージーと対等に仕事をする環境です。オージーが1時間でやるレポートを、ネイティブでない僕は2時間かかることもあります。その1時間のギャップは、影の努力です。表で見せると生産性が悪いと思われそうです(笑)」

寺澤：「僕の仕事のモチベーションは、『日本のビジネスマンが世界で通用する』と思わせることです。日本人が会社にいると助かる、と言ってもらいたいですね」